

第1回可児市地域公共交通協議会 議事要点録

日時 平成22年6月2日(水)

午後1時30分～午後3時30分

場所：可児市役所4階 第3会議室

出席者：(委員) 50音順：敬称略

安藤喜美子 岩田 健司 小川 健司 桑下 和弘 佐橋 雅喜

澤田 幸博 品川 滉彦 杉山 強一 林 隆 林 則夫

林 美由樹 牧野 英紀 山田 隆治 若林 拓史

(代理)

大橋 憲二 柴田 義隆 谷口 哲一

(欠席)

高橋 誠 前田 久恵

(事務局)

総合政策課長 古山 隆行 総合政策係長 肥田 光久

総合政策係主任 三輪 千尋

1. あいさつ

(あいさつ)

事務局から委員各位へ改めて依頼と謝辞を述べた。

会長選出まで事務局で議事進行をする。

〔資料確認〕

資料1、可児市地域公共交通協議会設置要綱について説明した。

2. 委嘱状の交付

(委嘱状の交付)

副市長から各委員へ委嘱状を交付。

3. 会長の選出

(会長の選出)

協議会設置要綱第5条に基づく互選について事務局が説明した後、会長を選出。

〔山田委員を会長に選出、会長席へ移動〕

以後、会長が議事進行を行う。会長が参集いただいた委員各位へ謝辞を述べた。

会長 全国さまざまな市町村でコミュニティバスの運行に苦慮している。地方自治体は利用者が少なくなったからといってバスを止める訳にはいかない。それぞれの市町村が知恵を絞りながら地域の公共交通の維持に努めている。鉄道・バス・タクシーそれぞれの力を借りながら、地域の公共交通を守っていききたいので、何卒ご協力をよろしくお願いします。

(協議会運営)

会長が会議の運営について説明を求め、事務局が協議会運営案を説明した。

〔運営案について了承〕

(議事録署名者の指名)

協議会の会議運営に基づき、会長から本日の会議録署名者として小川健司委員と牧野英紀委員の指名があった。

(可児市の公共交通体系)

事務局が公共交通体系の説明をした。

4. 「電話で予約バス」の運行状況について

(電話で予約バスの運行実績)

資料4に基づき、4月から本格運行をしている今渡・川合・土田地区「電話で予約バス」の実績について事務局が報告した。利用者数は4月対前年比131%、5月151%となっている。運行補助金は前年と比較して約3分の2減少した。バス停、便数及び運行日を増やして利用者数が増えたことで有効性が確認できた。

〔質疑なし〕

5. 「さつきバス」の改正について

(さつきバス兼山線の停留所設置及び運行ルート変更)

資料5に基づき、さつきバス兼山線の沿線にある御嵩町の商業施設「ラスパ御嵩」に停留所を設置し、同停留所を回る運行ルート案について事務局が説明した。

〔質疑なし、変更案について了承〕

(春里・姫治地区及び羽崎・二野・久々利地区での「電話で予約バス」の実証実験、さつきバス虹ヶ丘坂戸線のルート変更)

資料6に基づき、春里・姫治地区及び羽崎・二野・久々利地区で実証実験をするため、それぞれの地域でコミュニティバス運行協議会を開催した概要を事務局が報告した。

資料7に基づき、春里・姫治地区及び羽崎・二野・久々利地区の「電話で予約バス」実証実験案に

について事務局が説明した。また、さつきバス羽崎久々利線、清水ヶ丘西可児線及び西可児姫治線の運休について事務局が説明した。

資料8に基づき、さつきバス西可児姫治線の運休により交通空白地となる中切・古瀬地区について、虹ヶ丘坂戸線の運行ルートを変更して同地区へ運行する案を事務局が説明した。

資料9に基づき、「電話で予約バス」実証実験案のスケジュールを事務局が説明した。

委員 ダイヤについて、春里・姫治地区では毎時00分に可児駅を出発し毎時15分に岐阜社会保険病院を出発する案だが、これは仮想ダイヤを組んだ結果15分発が妥当だということなのか。利用者の分かりやすさを考えると、今渡・川合・土田地区の往路00分発と復路30分発のほうがよいのではないか。15分発にされた理由を教えて欲しい。

虹ヶ丘坂戸線の運行ルート変更で、現状の虹ヶ丘坂戸線の西可児駅で待機している間に中切・古瀬地区を往復するということだが、現状のダイヤを拝見するとそれだけの時間がないように見えるがどうか。時間がないためダイヤ変更をする予定か。兼山線も同様の質問でダイヤ変更をする予定か。

今回の「電話で予約バス」を導入することで休止する路線について、1便あたりどれくらいの人が利用しているのか。

事務局 「電話で予約バス」のダイヤについて、往路が毎時00分に出発して復路が毎時30分に出発するのが理想である。しかしながら運行区域が広いため30分の運行時間では難しいとの運行事業者の助言もあり運行時間を45分と設定した。但し、全て「電話で予約バス」の復路は可児駅へ向かうので、可児駅での往路のヘッドダイヤは毎時00分に合わせて乗り継ぎ等の利便性を図りたい。このため、今回は岐阜社会保険病院を毎時15分発とした。

さつきバスを運行管理している東濃鉄道株式会社と事前協議をして、実際に9分で運行できることが確認されたため、今回の提案をさせていただいた。したがって、従来の部分についてダイヤ変更はしない。なお、従来虹ヶ丘坂戸線の車両は西可児駅で待機していたが、変更すると西可児駅で待機せずに運行して西可児駅へ戻ってくるので、違和感を覚える利用者の皆さまの不安を解消すべく西可児駅の周知は特に徹底したい。

兼山線のダイヤについては、まだ具体的なダイヤを決定していないが、数分の変更が生じてくる。

最近の利用状況について、羽崎久々利線は1便あたり平均7.5人の利用、清水ヶ丘西可児線は1便あたり平均7人、西可児姫治線は1便あたり平均5.2人の利用がある。

委員 羽崎、二野、大森については、めぐみの農協が大森、久々利、羽崎の3支店を統合して現在の羽崎に集約するため、大森や久々利からめぐみの農協の羽崎まで来られる方が増え、周辺道路が混雑すると思う。このため、羽崎の農協前に信号機を設置して欲しいという要望が出ており、利用者や通行する方の安全を確保するために、信号機の設定についてもご配慮をいただきたいということを考えている。

それからバスの待ち時間については、陽気のいいときは問題ないが、雨が降ったり、暑かったり寒

かったりする場合、どこか身が寄せられるような場所を確保できればということをお願いしてきた。3支店が統合する羽崎の支店においては、ひさしを出していただいて、待合所の代わりになるものを作って欲しいと要望をしておいた。現在は設計の段階とのことだ。

1点質問だが、今のさつきバスで通勤・通学をしておられる方が見えたらその対応をどうされるのかお伺いしたい。

会長 さつきバスから停留所数を増やしているが、その点の考え方の説明と、今の通勤・通学の考え方について回答をお願いします。

事務局 さつきバスの定時定路線はきめ細かに廻っていくので、運行に要する時間がかかり停留所をあまり増やせなかった。今回の「電話で予約バス」はタクシー車両でお客様を運ぶので、最大5人しか乗車できないため、停留所が増えてもさほど運行時間の影響がない。停留所までの距離を平均200メートル以内とし、さつきバスの停留所に加えて地域の集会所や公民館、中心部のお店なども増やした。この地域の集会所を利用することで、皆さんにとってなじみのある場所へできるだけ歩いていくことができる。また、集会所は屋根などがある極力雨風が避けられるところを選定のひとつの視点としている。中にはそういうところがない停留所もあるが、極力公民館やお店を利用することで停留所をつくっていききたい。

通勤・通学について、さつきバス利用者の85パーセントは高齢者である。さつきバスの目的として高齢者などの交通弱者の日常の足を確保するために運行しており、ほとんどの路線が午前8時からしか運行していないため、通勤・通学にご利用いただく方はほとんどいない。あれこれやると経営がうまくいかないというのが、ひとつ経営セオリーとしてあり、現在のところ高齢者中心のサービスを行っている。

委員 料金は高いが安い方がいいかとなると、安い方がいいことが人情であり、安い方がいいか無料がいいかとなれば無料がいいとなるが、それでは社会秩序が保てない。要するに業者が利益を確保しながら経営する必要があるため、それ相応の運賃の設定ということになる。とにかく安いに越したことはないが、十分利益がでる価格設定が必要で、今渡・川合・土田地区の300円という例があれば、同水準でということを考えている。やみくもに安くして経営が成り立たないので止めたとなると、逆に地域住民に大変な迷惑をかけることになるので、価格設定については運行事業者も事務局も財源等の支障がないよう慎重に設定し、将来に続くようやっていただきたい。私は原案に賛成をする。

会長 前回までの川合土田線において、運賃だけで2回協議会を開いて議論を重ねてきて300円の運賃で決定した経緯がある。

先ほど資料9のスケジュールの中でアンケートの説明をしたが、川合土田線の実験中も事務局が地元へ出向いて十分な説明をしていたが、アンケートをとると知らない人が多くみえた。その後本格運行になってある程度認知度が上がり従来のさつきバスから5割増の利用となったが、周知するにはかなりの時間が必要だと実感した。前回のことを十分参考にしながらやっていきたいと思っている。

委員 1点だけ提案をしたいが、各公共交通機関はそれぞれ苦労している中で、デマンド方式はこれからの交通機関として優れていると思う。高齢者がサービスの中心との話が出ているが、名古屋市で65歳以上の方はバスも地下鉄も無料である。このように一定の基準に対して高齢者に運賃を減らすとか目に見えた優しい施策が必要ではないか。最近、自治会単位でもボランティアの輸送をやる話が出ている。また、高齢者の引きこもりや交通安全に対する問題があり、交通事故全体の約6割が高齢者となっている。特に高齢者の中でも自転車と歩行者の割合が多いデータが出ているが、本当に安全で安心できる公共交通機関に乗ってもらうのが一番いいと思う。ただ、利便性と運賃の問題が絡んでくると思うので総合的に考えて、300円が高齢者対象ならばそれまでだが将来を見据えて料金体系も高齢者に配慮してほしい。料金が一律だと優しさが無い。これから高齢化が進んでいく中で様々な高齢者施策を打たなければいけないと思うが、そういったところへの気配りも将来的に必要ではないかという感じがする。

これまで多くの議論がなされてこういった結論が出ていることは大変結構だが、将来にわたっての検討課題としてお願いしたい。

会長 将来にわたっての検討課題ということなので、これは私のほうも十分認識をしているので今後十分考えていきたいと思っている。

委員 300円と決定するまでに大変苦労されたことは聞いた。300円という料金は各種団体の方々の意見で決まったが、利用者が運賃についてどういう受け止め方をしているか伺いたい。それを200円にしたら買い物に行く人が倍になるとか、100円にしたら更に倍になるとかそういうような調査はあるのではないかと。なぜかと言うと、健康の維持は外に出る回数に比例すると思うので、公共交通と老人医療の問題がうまくマッチするのではと思う。将来的に市民の医療費を削減させるために、この運賃を100円にしたらどうかと思い提案した。地域の福祉施策として別の視点でいるのではないかと。

事務局 関心の高いところだと思う。今渡・川合・土田地区では、この料金だけを決めるために2回会議を開いたほど議論になった。資料7の10ページにあるが、最大の理由は公共交通のサービスと受益者負担のバランスだと考えている。過剰に安くて便利にすると、他の路線バスの利用者が減少し、タクシーの利用者も減少するため公共交通機関のバランスを欠く。したがって、サービスの水準と運賃のバランスをとりたい。例えば名古屋鉄道の可児川駅から新可児駅までは220円で1時間に上り下り合わせて4便ある。タクシーで可児駅から岐阜社会保険病院まで1,720円かかる。タクシーは24時間いつでも電話をすれば自宅へ迎えに行きドア・トゥ・ドアをしてもらえるので非常に便利だが、料金が高めとなっている。路線バスは距離で料金が異なるが大体200円から400円ぐらいまでとなっている。ここで「電話で予約バス」を100円でやると、タクシーに乗らずに便数は限られているが「電話で予約バス」だけを利用すると思う。電車や路線バスも同様のことが言え、利用者が減少してしまうことが懸念される。

この輸送サービスのサービス水準と運賃はバランスをとる必要があるため300円の運賃をご提案し

て決定してきた経緯がある。そして、その料金を含めた評価については否定的な意見はあまりなかった。また、300 円の運賃で本格運行に入ってから5月には5割増になったように、使い方に慣れていただければ、サービス水準がお客様にとって感覚に合い支持もいただいていると感じている。こういったことを鑑み300円をお願いしたい。そしてこれを拡大させ、1回の電話で周辺部から市中心部まで300円で誰もが行ける仕組みを目指していきたい。

また、名古屋市の市バスや地下鉄で高齢者に無料パスを発行することについては、今年の協議会で議論があった件だが、さつきバスの85パーセントの方が高齢者なので、高齢者を割引するとほぼ全員を割り引くことになってしまう。名古屋市がなぜ無料パスを発行できるかという、高齢者以外の方が圧倒的に多いので、高齢者を割り引いても少しの収入減で済む。高齢者の利用率が高い本市では、いわば通常料金が600円で高齢者に対し300円の割引制度を作ることとほぼ同じ仕組みになる。高齢者割引というのは現実の利用者の割合をみると難しい。

会長 料金の話については市の公共交通を維持していくかぎり、ずっと議論していく内容だと思うので、今後ともよろしく願いいたします。

〔電話で予約バス実験案・さつきバス運休及び変更案について了承〕

6. 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）活性化について

（名鉄広見線活性化の取り組み）

資料10に基づき、名鉄広見線利用促進活動について説明した。平成21年度末で名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）対策協議会を解散し、今年度から名鉄広見線（新可児～御嵩駅）活性化協議会を設立した。また、名鉄広見線活性化計画に基づき、利用促進を図り収支改善を進める方策について説明した。

〔質疑なし〕

7. 閉会

会長から、本日の協議結果について非公開にする部分はないことの確認があり閉会した。

上記のとおり会議の議事要点を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

平成 22 年 6 月 2 日

署名委員 小川 健司

署名委員 牧野 英紀
